

< 渡辺敏弘ガバナー補佐 >

2014年2月4日に開催予定のインターシティミーティング (I. M) の実行委員会のメンバーが決まりました。ホストクラブとして会員さんの御協力をよろしくお願い致します。



< I. M 実行委員会：小林 弘実行委員長 >

実行委員長の小林です。よろしくお願い致します



< 米山委員会：中原光男委員長 >

「ハイライトよねやま」より抜粋
10月までの寄付金は前年同期と比べ2.3%増、約1,150万円の増加となりました。8~9月は低調だったものの、10月には100万円以上のご送金をいただいたクラブが19クラブ、計2,900万円（前年度は18クラブから計2,300万円）となったほか、3名からそれぞれ100万円ずつの大口寄付をいただきました。その結果、普通寄付金が1.3%増、特別寄付金が3.0%増と、一気に増加へと転じることができました。



2014学年度の米山記念奨学金（学部・修士・博士課程 / 地区奨励）には、指定校531校（昨年度500校）から1,296人（同1,490人）が推薦されました。被推薦者の国籍・地域別割合は、中国が9.5%（前年度比▲1.9%）、韓国13.6%（▲1.1%）、台湾4.3%（+1.1%）、その他が22.6%（+1.9%）となり、前年に引き続き中国・韓国の割合が減少し、台湾およびその他の国籍が増加しました。その他の国籍で多かったのは、ベトナム、マレーシア、モンゴルでした。

課程別では、博士課程が21.1%（▲2.2%）、修士課程41.7%（▲1.3%）、学部課程35.6%（+3.1%）で、学部生の割合が一層増加しています。また、大学以外の教育機関を対象とする「地区奨励奨学金」は、6地区10校から計19人の応募がありました。上記とは別に、現役奨学生の延長制度「クラブ支援奨学金」には9地区13クラブから、また、試行2年目となる「海外応募者対象奨学金（個人応募）」には、94件の応募（採用枠は15地区最大3人）がありました。

ネパールの首都・カトマンズ市内で、10月19日、ネパール米山学友会の創立総会が開催されました。詳しくはHPをご覧ください

http://www.rotary-yoneyama.or.jp/summary/pdf/highlight164_pdf.pdf

< ニコニコ委員会：小林 弘委員長 >

■小菅正彦：妻の告別式には多数の会員にご会葬いただき、暖かい皆様のお心を賜りました事、心より感謝申し上げます。

国際ロータリー第2790地区第12分区

松戸北ロータリークラブ



四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1・真実かどうか
- 2・みんなに公平か
- 3・好意と友情を深めるか
- 4・みんなのためになるかどうか

第1990回 例会 2013年11月19日(火)

- 国際ロータリー会長 ロンD. パートン
- 第2790地区ガバナー 関口 徳雄
- 第12分区ガバナー補佐 渡辺 敏弘
- 松戸北ロータリークラブ会長 児山 守治
- 松戸北ロータリークラブ幹事 平田 洋一
- 例会日 - 毎週火曜日12:30より (第1例会18:30)
- 例会場 - 松戸市八ヶ崎1-10-6 「びわ亭」
- 事務所 - 松戸市八ヶ崎1-11-13 サンライズハイム101
- TEL/FAX - 047-711-5950 / 047-711-5910
- Web/Mail - www.rc2790-12.jp / kanji@rc2790-12.jp

WEEKLY REPORT

<第1990回：例会プログラム>

12:30	点鐘	児山会長
	ロータリーソング（我等の生業） 斉唱	
12:33	お客様紹介	崎谷会長エレクト
12:35	会食	
12:55	例会再開	
	会長挨拶・報告 幹事報告	児山会長 平田幹事
13:00	【委員会報告】	
	◆社会奉仕委員会 本日の社会奉仕基金発表	高崎委員長
	◆ニコニコ委員会 本日のニコニコ発表	小林弘委員長
13:05	クラブフォーラム	
13:30	点鐘	児山会長



<会長挨拶：児山守治会長>

皆さん こんにちは。
暖かい食べ物を少々と暖かい寝床があれば幸せと感じる今日
この頃です。
皆さんいかがお過ごしでしょうか？

先週につづいて米山梅吉の生涯の話です。



沼津中学校時代 米山梅吉は長泉村から沼津まで毎日歩いて通学しました。2里（8 km）いつも右手には富士山が見えて 楽しい通学の道筋でありました。

当時の中学生は 論語くらい暗記していたものである。上級になると最初から漢文で書かされました。中学生の頃は 俊敏 明朗 快活で 学友から愛されました。

この頃 雑誌に投書をはじめた。「顕嘉新書」という 当時日本中に行き渡っていた雑誌であったからこれに掲載されることは当時の青少年の憧れでありました。その雑誌には梅吉と夏目金之助が一番よく掲載されていました。それで夏目金之助という名前を覚えた。その人は後の夏目漱石であった。

このようにして 沼津中学校の通学は梅吉にとっては 楽しい時代でありました。何の苦労も無く勉強し 成績は良いし友達も多かった。しかし梅吉は 学年が進むにしたがって「果たして自分の人生はこのままで良いのであろうか」という前途に対する疑問を持ち始めたのであった。というのは 梅吉は和田家から米山家に養子に来たのであるが 養子に来たということは米山家を継ぐということである。

このまま行くと 梅吉は米山という旧家を継いで 上土狩という土地で地主として一生を送らなければならないわけである。果たして自分の人生はこれで良いのだろうかという疑問であった。

WEEKLY REPORT

それは梅吉が大地主の旦那の生活を知っていたからであった。その旦那というのはある由緒ある家から大地主の家に婿に入った男であった。

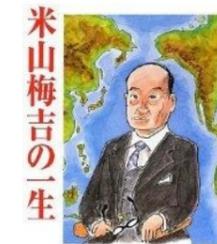
中学を卒業しており大地主の若旦那としては申し分のない人間であった。しかし若旦那であるから 仕事はほとんど無く毎日何もしないで暮らしているのであった。若旦那の役目は 秋になると小作人が年貢の米を持ってくるのを量って受け取ることだけだった。その他には何も仕事がない。普段は何にも用事が無い。親戚が多いのでその冠婚葬祭を一手に引き受けているのであった。「俺も中学校を卒業すればあのようなになるのか 俺の人生はそんなもので良いのか」梅吉はその若旦那の上に自分の将来を重ねて思い悩むのでありました。普通の少年であれば何の疑問も無く与えられた境遇に満足して本能的に順応していくのであるが梅吉はそうではなかったのであった。

村の中だけみていれば平穏であるけれど目を転じて広く世の中を見てみると もう東京には大学が出来ていて 大学を卒業した人々が官界や経済界 ジャーナリズム界で活躍していました。「俺も生きるからには あのように生きてみたい。生きねばならない。あの若旦那のような生き方は嫌だ。」しかしこの長泉村にとどまっていたのではそれが出来ない。自分の行く道を梅吉は悩みました。

文章に自信のある梅吉はとりわけジャーナリズム すなわち新聞記者にあこがれていました。

沼津中学校からはもう学ぶものは学んだ これからは東京に行って石にかじりついてでも勉強したいという願望が次第に梅吉の中で強くなっていくのでありました。

この続きは後日といたします。



これにて 挨拶といたします。

<幹事報告：平田洋一幹事>

◆ 関口ガバナーより地区大会のお礼状が届きました。多くの会員の登録のお礼と大会を省みて、改善すべき事を後に伝え、地区の発展に供していこうとのことでした。

◆ 松戸大栄青果（株）さんの駐車場をお借りしました。びわ亭さんの決められた駐車場があふれた場合、松戸大栄青果（株）さん駐車場に止めてください。

尚、止められた方は、駐車場使用カードにご記入下さい。メールボックスのそばに置いてあります。

◆ 12月、1月は例会場が変更となります。お間違えなくよろしくお願いします。

◆ 1月14日が第一例会となりますので夜間例会となります。



■ロータリーの奉仕哲学「超我の奉仕」Service above self■

このServiceの意味は人のためにつくすこと。ビジネスでもServiceの心がけはシェルドンの言葉を借りれば「永続的な顧客を得る道」であり、信用を増して繁栄への道につながる。